

メロディ・インターナショナル株式会社



モバイル胎児モニターを用いたタイ農村部における妊婦健診率向上に資するプラットフォームの構築

本事業の目的

本事業の目的はタイ王国北部に位置するチェンライ県の周産期医療分野におけるDX推進を目的とした、胎児モニタリングを用いた妊婦健診率向上に資するプラットフォームの構築である。

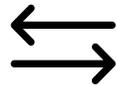
本事業では、地理的背景から引き起こされた交通弱者の妊婦健診への低アクセス率を、モバイル胎児モニター（以下「iCTG」）を活用し、現地に根ざした解決方法を提案。

現地企業や政府との協力・連携

- カウンターパート：CHIANG RAI PROVINCIAL PUBLIC HEALTH OFFICE (“MOPH”)
- 協力・連携の内容：MOPH傘下の病院におけるPOC実施病院の選定、フォローアップ、現場運用サポート、効果検証、データ集計



CHIANG RAI PROVINCIAL
PUBLIC HEALTH OFFICE
 (“MOPH”)



Melody 
International

メロディ・インター
ナショナル株式会社



傘下5病院

現地の経済・社会課題

タイの妊産婦死亡率は10万人当たり37人（日本の約7倍）、新生児死亡率は1000人出産当たり5人（日本の約6倍）であり、周産期医療環境は未だ厳しい状況にある。今回実証を行うチェンライ県における産前健診率は低下傾向にあり現地保健省の調査によると12週までに健診を一度でも受けたことがある妊婦は約半数しかない。さらに、産前健診をトータル5回（日本は14回が基準）受けたことがある妊婦は2022年時点でたった7.2%となっており（別添参照）、健診へのアクセスの悪さが周産期死亡率の悪化を招いていることが予測できる。

周産期における死亡症例の一部は、胎児モニタリングを行い、医療従事者の適切な介助・ケアを受けることで救えるが、胎児モニタリングの重要性が広く認知されておらず、その技術を学ぶ場も少ない。そのために、妊婦自身の健診率自体が低く、十分な知識を持たない助産師による分娩取り扱いが多く、適切なケアを受けられない妊産婦が大勢いる。更に、今後生活水準の向上による糖尿病人口の増加、女性の社会進出による高齢出産の増加に伴い、ハイリスク妊婦のケアも求められてくることが想定される。

メロディ・インターナショナル株式会社

モバイル胎児モニターを用いたタイ農村部における妊婦健診率向上に資するプラットフォームの構築



実証期間

2022年10月～2024年1月

実証した内容

これまでCTGを導入できなかった診療所・病医院含む合計5施設においてiCTGを用いた胎児モニタリングを実施。加えて看護師・ヘルスアシスタントへiCTGを用いた胎児の健康管理に関する教育も併せて、現地パートナーであるチェンライ保健省（MOPH：Ministry of Public Health）及びチェンライ県の中核病院である”Chiang Rai Prachanukroh hospital”と共同実施し、スキル向上や役割の拡張が促進され、それぞれの妊婦に対して経過を踏まえた縦断的にCTGグラフの判読するスキルを取得した。

iCTGにより胎児死亡などにつながるリスクの早期発見を行うことで、医療の介入が必要な妊婦か否かを判断できるようになり、リスクのある妊婦は早めに上位病院での受診を促す。これにより看護師・ヘルスアシスタントもリスクのない妊婦の出産に専念することができるようになった。

事業の成果/今後の予定

カウンターパートであるチェンライ保健省の協力及び推進力のお陰で概ねスケジュール通りの機器導入に始まり、その後のアフターフォローや教育研修会まで非常にスムーズに事業を遂行することができた。特に使用回数が少ないhealth promotion hospitalでは有効な活用方法を、保健省担当者やチェンライ県のKey Opinion Leaderである産婦人科医と相談することで改善が見られ、官民一体となって介入することの重要性を感じた。

今後は周産期医療分野、特に妊婦健診の遠隔医療を用いた効率化に伴う生産性向上、継続的な健診の提供を実現し、同様の課題を有する農村部エリア（タイに限らず）での横展開を実施し貢献する。タイにおける事業展開については既に現地販売店と契約締結済みである。従って、バンコク等の都会エリアをターゲットとするのみならず、今回実証を展開したような医療資源の不足している農村部エリアでの展開も視野に入れた事業戦略を立案し、タイ全土における胎児モニタリングの定着を図っていきたい。

(写真：実証の様子)

